

平成 24 年度日本財団助成事業 検討委員会報告書

NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター

■事業名 未就学児の海辺の自然体験活動の教育的及び医学的な検討と指導法の構築

■事業の目的

本事業は、幼児期（ここでは3歳～5歳を対象とする）において、海洋に関する意識の芽生えを促進し、海洋教育の効果的な推進に資するための研究を行い、併せて、様々な場面（教育機関、市民活動、地域、家庭等）で、海辺の自然体験活動が効果的に実践される手法を構築することを目的とする。

■検討委員会

I、検討委員メンバー

氏名（敬称略）	所属	役職・資格
渡部かなえ	青山学院女子短期大学 子ども学科	教授
中尾 薫	おうちえん Telacoya	代表
富田 朋子	株式会社ベネッセスタイルケア	保育士
海野 義明	NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター 鹿屋体育大学 海洋スポーツセンター	代表理事 客員教授
津田 聖士	NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター	理事
西川 典行	自然体験活動指導者（兼記録、編集）	CONE トレーナー
山本 宏明	自然体験活動指導者（兼記録）	CONE トレーナー
相本 大吾	自然体験活動指導者（兼事務局）	CONE リーダー
海野 佳子	NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター	事務局

II、検討委員会の目的

- (1) 本センターにおいて平成 21 年度より実施してきた、幼児（ここでは3歳～5歳）とその保護者を対象にした「親子海辺の自然体験教室（呼称：さざなみ教室）」において課題を抽出し、改善策の明確化を行い、今年度の実施において検証する。
- (2) 次年度に作成予定の海辺の自然体験活動指導教本の編集内容の検討。
- (3) 研究論文のためのデータ収集の手法についての検討。

III、検討委員会開催日と内容

(1) 第1回検討委員会

○日時：4月8日（日） 16:00～18:00

- ①代表挨拶 「幼児期からの海辺の自然体験活動の重要性」について

②「さざなみ教室」 開設時（平成 21 年度）から現在までの経緯と、本年度計画

③助成事業の確認

④研究テーマと具体的な進め方

テーマⅠ：「海辺の自然体験活動が子供の行動発達に及ぼす効果」について

- ・子どもの成長の発達を、一人の子どもの行動を映像で記録し、それをカテゴリ分析という手法で統計処理して分析する。
- ・表情、目の動き、発話等がわかるように子ども対象児 2 人（バックアップも考慮しての 2 名）の行動をビデオ撮影する。
- ・対象児は、さざなみ教室初参加であることと、発達段階（年齢）を考慮して、2 名候補とする。
- ・海辺の活動でのデータ収集が目的なので海辺の活動ができないことを考慮し、12 月も海辺の活動はビデオ撮影する。
- ・アンケートは、参加者全員に、教室開始前と教室終了時に実施し、文科省データと比較検証する。

テーマⅡ：「絵に見る自然体験活動を通しての子供の心の育ち」について

- ・絵で子どもの育ちを直接見る。
- ・毎回のプログラムに組み込み、お絵描きの時間に実施する。
- ・子どもが自由な発想で描けるように、監督するリーダーや保護者が誘導等をしないように配慮する。
- ・用紙は、A3。画材は、クレヨン、サインペン等を用意する。
- ・描いてもらった絵は、写真撮影する（次回に返却）。

（２）第 2 回検討委員会

○日時：4 月 14 日（土） 16:00～18:00

①第 1 回さざなみ教室のふりかえり

②研究については、ビデオ撮影の試行と状況報告、児童作品の活用についての説明

③教本作成編集内容については、

- ・日本中（海が身近にないところも含め）の保育施設すべて（保護者にも）に、海に行ってほしいという気持ちを伝える。（海へのアプローチ手段をひも解く。）
- ・海（海辺）では、深い学びがあるということを表現する内容。
- ・海（海辺）に行くまでのハードルが高くないような内容。
- ・海辺環境（砂浜、磯浜等）、発達段階（年齢）、季節等を考慮して、活動事例を記載。
- ・入門的な内容を中心とし、条件が整えば、あるいは専門家が同行すれば可能な発展的内容も盛り込む。
- ・幼児教育機関として活用しやすい教本になるために、様々なタイプの幼稚園・保育園で検証していきたい。

- ・子どもたちに「こんなふうになってほしい」というシーン【子どもの理想の姿】をイメージして作成する。
- ・さざなみ教室を教育現場で展開する時を想定し、手引書の目次、レイアウト（掲載項目）案を、次回検討会（5/19）に提示する。

（3）第3回検討委員会

○日時：5月19日（土） 16：00～18：00

- ①第2回さざなみ教室のふりかえり
- ②研究データの収集における問題点として、
 - ・ビデオ撮影時、児童が保護者といつもいる環境ができているため、子ども同士の関わりを記録するのが難しい。
 - ・子どもたちが絵を描くとき、自由に描ける環境（保護者やリーダーの声掛けがない、誘導しない）が確保できない場面があった。
- ③教本作成編集内容について、
 - ・対象は、幼児（3～5歳程度）であるが、成長発達の程度は個人差があるので、年齢別区分をせず、アクティビティを「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」と表現したものにする。指導者は、それをおおよそ3歳、4歳、5歳と読み替える。
 - ・活動場所は、「砂浜」「磯（岩浜）」「干潟」
 - ・年間を春夏秋冬の4シーズンで紹介。
 - ・幼児向けの「海辺の総合学習」をA3サイズで作成する。
 - ・1つのプログラム（アクティビティ）は、1～1.5時間程度とする。
 - ・年間カリキュラムと、当日の活動案を作成する。

※6月の活動は、天候悪化により、室内活動に変更。

（4）第4回検討委員会

○：7月21日（土） 16：00～18：00

- ①第4回さざなみ教室のふりかえり
- ②研究対象児童と研究のテーマについて
 - ・研究論文については、教育学的及び医学的双方の観点から検証する方向で検討したが、今回は、教育学的検証を軸としてまとめることとする。
 - ・アンケートの対象グループと実施、内容については、以下のようにする。

アンケート対象グループ	前期実施	後期実施	アンケートの種類
さざなみ教室 H24 年参加者	○	○	本センター作成、文部科学省作成
おうちえん Telacoya 園児	○	○	本センター作成、文部科学省作成
認可幼稚園 1（横浜市）	○		本センター作成、文部科学省作成
認可保育園 2（横浜市）	○	○	本センター作成、文部科学省作成

③教本作成編集内容について

- ・掲載するアクティビティは、最も実施してほしい（教育効果の高い）ものがないのではないかと思う。
- ・季節によってアクティビティは3つ程度。冬は少なくなる可能性があるが、「漂着物を観察し、描いてみよう」等があげられる。事前学習と一緒に考えていったらいいのではないかと思う。
- ・親子を対象にした自然体験活動のガイド等は、既に出版されているので、幼児教育関係者へ向けた専門的な内容に絞った方がいい。
- ・ページ割り（現段階のイメージ）

割り振り	備考
目次	
はじめに	
海辺の自然体験の教育的効果	客観的立場として大学教授等に執筆を依頼する
海辺の基礎知識	フィールドの名称 潮の満ち引き等
季節別フィールドマップ	特徴の記載のあるもの、何月にどんな活動ができるか
フィールド、アクティビティ	量的に多くよりも、内容を精選して掲載 観察重視(生きているもの・生きてないもの) 五感を使って感じて発展させていく
<p>構成上の留意点・ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「海辺」（磯）をフィールドとして活動することの最大のメリットは、多様な生物の種類・数が観察できる、触れることができることである。 ・海に来たときに、指導者がいなくても、自分ひとりでも遊びができるようになるようにしていくことが必要である。 ・ベースにしていくのに、さざなみのプログラムをベースにしてそこに意見を加えていけばいい。 	

※9月の検討委員会までに各委員が検討すること

「季節＝春 フィールド＝磯」でアクティビティ案を提示

タイトル ねらい 内容（導入・遊び上のポイント指導上の留意点）

「NHK Eテレ教育」「自然と遊ぼう」が、ホップくらい。

(5) 第5回検討委員会

○日時：8月4日（土） 16：00～18：00

①第5回さざなみ教室のふりかえり

②研究論文についての検討

- ・9月上旬に回収されたアンケートは、随時まとめ、アンケート中間まとめとして提出する。

③教本作成編集内容については、前回の課題内容（幼児教育機関に配布する内容の反映したシート案）を9月の検討委員会内で話し合うことを確認。

(6) 第6回検討委員会

○日時：10月13日（土） 16:00～18:00

(※9月に検討委員会が実施できず、10月に開催)

①第6回さざなみ教室(9月開催)ふりかえり

②研究論文について

- ・保護者アンケートの準備

再度、内容の確認と一部修正。印刷日程及び配付、回収日程を確認。

③教本作成編集に向けて、(プログラム案を元に、再度の検討)

- ・「フィールド=磯、時季=春、幼稚園等教育機関が実施する」と仮定したプログラム案についての検討
- ・よりよいものにするために、いろいろなパターンを提案していく。
- ・本時の展開の記入欄では、「タイトル」「ねらい」が可能な限り具現化できるような記載をする。
- ・対象について…年齢別とするか、経験値別にするか。
- ・対象×フィールド×季節で、さまざまな案を提示し検討する中で、手引き書としての課題が見えてくる。
- ・個別シートから、共通項目を洗い出し、別ページでまとめる。
- ・海でのプログラム実践後の取り組み（各園でのその後の展開）は、手引き書では考慮しない。（園での独自性を尊重）
- ・冬は除外して、春から秋のはじめごろまでの想定でいいのではないか。
- ・海辺の基礎知識（天候、災害、潮汐、危険生物等）は、当初の予定通り掲載。
- ・目次案を早めに提示し、ページ数を概算する。
- ・次回検討会では、対象（3、4、5歳児）、フィールド（磯、砂浜）、季節（春、夏、秋）でのプログラム案の提示

(7) 第7回検討委員会

○日時：12月8日（土） 16:00～18:00

①第9回さざなみ教室ふりかえり

②研究論文について

- ・12月22日(予定) さざなみ教室の特別プログラムにおいて保護者及び指導者向けに、現段階までに収集できたデータを用いて中間報告をする。

③教本作成編集に向けて

・前回の課題の検討

対象年齢（3、4、5歳児） フィールド（磯、砂浜）、季節（春、夏、秋）に応じたのプログラム案の検討

・次年度のモデル事業について、協力いただける園の特定などについて検討

（8）第8回検討委員会

○日時：1月13日（土） 16：00～18：00

①検討委員会のふりかえり

②研究論文について

・2012年度収集したデータを元に、2013年は研究論文の作成、発表。

発表先は2箇所、発表時期は2013年秋を予定。

渡部かなえ教授と本センターとの共同研究として発表し、ホームページ他、広く告知する。

「自然体験活動が子どもの行動発達に及ぼす効果の保護者アンケートに基づく検討」

⇒発表先：日本海洋人間学会

「絵に見る自然体験活動を通しての子どもの心の育ち」

⇒発表先：青山学院女子短期大学 紀要論文集

③教本作成編集について

・2012年度決定事項の確認と2013年度の方向性

○読者対象の絞り込み

→主な読書対象は、幼児教育機関関係とし、幼稚園、保育園等への海辺の自然体験活動の普及を目指す。

○内容の問題

→初心者も海（海辺）に行く想定し、ハードルが高くないような工夫と内容の検討をする。

○対象は、3歳から5歳児程度であるが、成長発達の程度は個人差があるので年齢の区別をどうするか。

→掲載するアクティビティーは、年齢の区別ではなく、「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」と表現したものにする。指導者が年齢や発達段階に読み替える。

○幼児教育機関が行うアクティビティーの時間としては、1つが1～1.5時程度とする。

○掲載する活動（特にホップ）内容は

→磯の生きもの観察を中心に編集する。

理由）磯で観察できる生きものは、種類・数が圧倒的に多いので、初心者向けとしてベストである。

※入門的な内容にするが、専門家同行あるいは状絵くんが整備されれば可能であ

る発展的（提案的）内容も盛り込む。

○2013年夏までにモデル事業を実施し、最終印刷に入る前に教本の検証を行う。

○作成した教本を幼児教育機関に配布すると同時に事業を展開し、実践的普及を行っていく。※2013年度森のようちえん全国フォーラム（2013年11月開催）が、神奈川県で開催決定。本センターも実行委員の1メンバーとして作成する教本に基づいたワークショップを実施。

■親子海辺の自然体験教室（呼称：さざなみ教室）

（1）実践と検証

・平成21年度から3年間開催されてきた「さざなみ教室」について

通年活動であることで、年間の自然のつながりや活動の流れを考慮し、単発ものにならないように工夫しているため、今後もこのスタイルを継続し、「1か月前に来た時を思い出す、ふりかえる」「1ヶ月後の様子や活動を予想する」等のつながりが考えられる活動にすることを確認した。

（2）今年度の海辺の活動内容（全6回）

第1回	4月14日	◎海辺の活動導入編 海辺で遊ぼう(1) ～砂浜を、波打ち際を感じよう！～
第2回	5月19日	◎海辺の自然観察編① 海辺で遊ぼう(2) ～磯の生きものとお友だちになろう！～
第3回	6月9日	◎海の活動体験編① 安全教室 海で遊ぼう(1) ～浮かんでみよう！泳いでみよう！～ →天候不良により室内活動に変更
第4回	7月21日	◎海の活動体験編② ボード体験 海で遊ぼう(2) ～ボードで波乗りしてみよう！～
第5回	8月4日	◎海の活動体験編③ ボード体験と磯の生きもの観察 海で遊ぼう(3) ～海遊びたっぷりの夏休みにしよう！～
第6回	9月8日	◎海の活動体験編④ シーカヤック体験 海で遊ぼう(4) ～シーカヤックをこいでみよう！～
第9回	12月8日	◎海辺の自然体験編② 凝着物観察 海辺で遊ぼう(3) ～海辺の宝物を探そう！～

■情報発信

（1）ウェブサイトの開設

本センターのホームページに平成24年度助成金情報を掲載

<http://oceanfamily.jp/josei/np2012.html>

本センター主催のキッズプログラム活動ブログ内で、「さざなみ教室」の活動を紹介

<http://oceanfamilykids.blogspot.jp/>

(2) 広報誌のお知らせで紹介

NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター
神奈川県三浦郡葉山町下山口 1741
電話 : 064-876-2287 FAX : 046-876-2297
URL : <http://oceanfamily.jp/>